

## 看取りの場面の目標について

### 1 検討事項（事務局提案）

看取りの場面の目標について、次のとおりとしたい。看取りの場面における評価指標等については、今後、検討することとしたい。

### 2 看取りの場面の目標について

在宅医療・介護連携推進事業の手引き Ver. 3では、次のように示されている。

#### (1) 場面ごとに具体的な目標を設定する重要性について

##### 第2章 市町村における事業の進め方

##### 3. 4つの場面を意識したPDCAサイクルの考え方と展開例

##### ポイント

4つの場面ごとの現状分析・課題抽出・目標設定等を行う前提として、地域のめざすべき姿を必ず設定し、その目的を実現するために、達成すべき目標を4つの場面ごとに設定することが重要である。

#### (2) 看取りの場面の目指すべき姿について

##### 第2章 市町村における事業の進め方

##### 3. 4つの場面を意識したPDCAサイクルの考え方と展開例

##### (5) 看取りの場面の考え方

##### ① めざすべき姿

地域の住民が、在宅での看取り等について十分に認識・理解をした上で、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、人生の最終段階における望む場所での看取りを行えるように、医療・看護関係者が、対象者本人（意思が示せない場合は、家族）と人生の最終段階における意思を共有し、それを実現できるように支援する。

#### (3) 他市の例

- ・本人の住み慣れた地域、本人の望む場所で不安なく最期まで暮らすことができる。医療・看護・介護関係者が、本人の人生の最終段階における意思を共有している。（道内市）
- ・最終的に、すべての利用者がよかったと思える理想の最後を迎えられるような看取りができるようにする（道外市）

（その他、手引きに示された「めざすべき姿」をそのまま引用する都市も複数みられる）

#### (4) 本市の案

入退院支援の場面における目標と同様に勘案したところ、国の手引きの例や、他市の例を参考にして看取りの場面の目標（案）を次のとおりとしたい。

医療及び介護関係者が、人生の最終段階における本人及び家族の意思を共有した上で、本人が、自ら望む場所で不安なく最期まで暮らすことができる。